

令和8年度「未来を先導する世界トップレベル大学院教育拠点創出事業」審査結果について

令和8年9月

未来を先導する世界トップレベル大学院教育拠点創出事業委員会

「未来を先導する世界トップレベル大学院教育拠点創出事業」（以下「本事業」という。）は、令和6年3月に文部科学省が公表した「博士人材活躍プラン ～博士をとろう～」で掲げられた大目標のターゲット年でもある2040年（令和22年）に向け、特に重要となる今後10年先における大学院教育の将来像を見据えて、全学的な視点から組織的な在り方も含めた大学院全体の教育改革を実現するための挑戦的な構想を支援することを目的とし、令和7年度より実施している事業である。

令和8年度は、4月6日から5月29日までの公募期間内に国公立大学から10件の申請を受け付け、独立行政法人日本学術振興会に置かれた当委員会で審査を行い、神戸大学を採択候補として選定することが妥当であるという審査結果を取りまとめたので公表する。

今回選定された拠点構想は、真理探究の基礎科学研究、地域社会と共創する応用科学研究の推進・連携により、「知と人を創る異分野共創研究教育グローバル拠点」として進化・発展し続けることを長期ビジョンに掲げ、徹底した国際協働・産学連携・異分野共創教育により、世界トップレベルの大学院教育を全学的に推進し、グローバル科学技術革新人材を育成することを目指すものである。構想においては、例えば研究科の統合や大学院改革における組織改革の推進等、全学的な改革の進め方が具体的かつ実現可能性のあるものか十分に検討されており、事業成果が、当該大学のみならず、我が国の大学院教育全体や社会にとっても先進性を有することが明確である点などで、優れた提案であった。

一人一人の生産性・価値創造性を高め、技術革新を生み出す人材の育成が求められる今こそ、今回選定された拠点構想は、今一度本事業の背景や目的を認識し、我が国の大学院の改革をリードしていくような取組を進めることを強く期待したい。加えて、学長のリーダーシップの下、大学全体が一丸となって改革に取り組み、その成果を社会に還元していくことを強く求めたい。

また、選定に至らなかった拠点構想についても、意欲的な構想を提案されたことには敬意を表したい。各大学の現状と課題を改めて分析し、挑戦的かつ実現可能性があり、発展的かつ継続的な活動を行い得る構想の構築に向けた取組を進めていただきたい。

高度な博士人材に対する社会からの期待が高まる中、大学院教育改革を先導する本事業の意義は極めて大きく、選定された大学が大学院改革ビジョンをもとに、我が国をリードする大学院改革を実施する本事業の目的を認識し、高度な博士人材の活躍につながる改革を期待する。

当委員会としても、拠点構想の着実な達成に向けて、フォローアップの充実に努めてまいりたい。

令和8年9月3日

令和8年度 未来を先導する世界トップレベル大学院教育拠点創出事業
申請・採択状況について

(1) 申請件数

件数	10
国立	6
公立	1
私立	3
計	10

(2) 採択件数

件数	1
国立	1
公立	0
私立	0
計	1

(3) 採択一覧

設置区分	大学名 (申請大学)	事業名	大学名 (連携大学)
国立	神戸大学	科学技術革新博士人材育成のための国際協働・産学連携・異分野共創エコシステム構築	